

中2 事実と意見「モアイは語る―地球の未来」

研究主題 「確かな国語力を育むための国語教育の在り方」 ―読んで考えて表現する力を育成する指導の工夫―

日立市立河原子中学校 藤 佳那子

1 はじめに

本単元は「読むこと」の学習が中心となる。「読むこと」について、情報があふれる現代の社会を考えたときに、書かれている情報をただ単に読み取るだけでは不十分であると感じる。そこに書かれている情報が確かにそうだとと言えることなのか、自分で考え、判断して結論を出す力が求められる。したがって国語科においても、内容の読み取りだけではなく、そこに書かれたことについて自分で考え、判断する活動を取り入れる必要があると考えた。「文章や資料を読んで考えたことをもとに書く力の育成」は、「学校教育指導方針」や「日立の学校教育」でも重点内容として指摘されている。

本校では「河中三つの工夫」を授業に取り入れている。「河中三つの工夫」とは以下の内容である。

- | | | |
|--------|---|-----------------|
| ①導入の工夫 | … | 学習の意欲付け |
| ②展開の工夫 | … | 思考・発表・検討の時間の確保 |
| ③終末の工夫 | … | 学習の振り返り・学習評価の定着 |

この「河中三つの工夫」を通して、生徒一人一人の確かな学力の育成を目指し、日々授業を行っている。そこで、「河中三つの工夫」のうち「展開の工夫」に重点を置き、様々な工夫を取り入れながら生徒一人一人に「読んで考えて表現する力」を育てたいと思い、本研究を設定した。

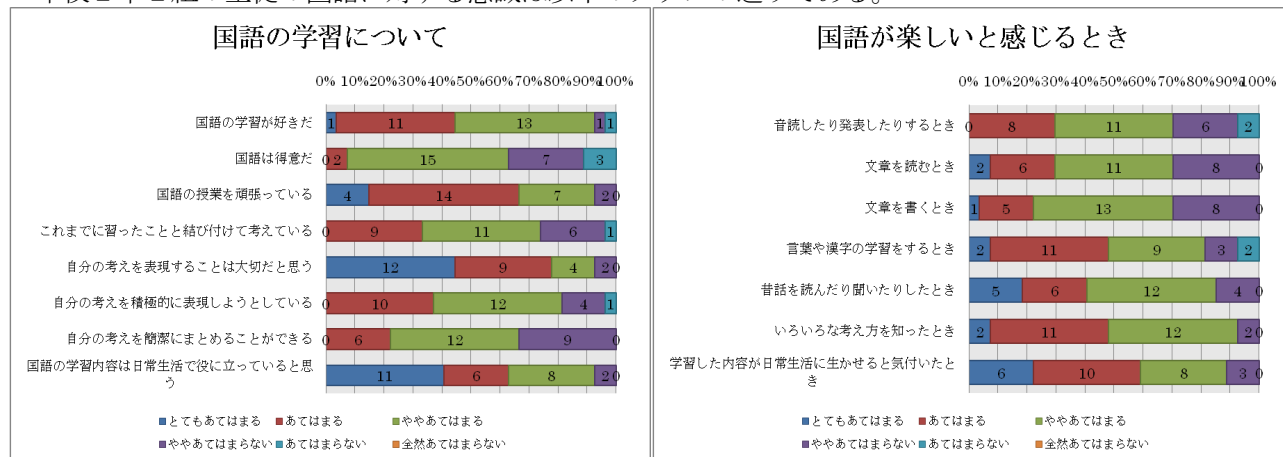
2 研究の仮説

- (1) 様々な資料を用いることにより、情報を収集し、整理したり分類したりする力が身に付くであろう。
- (2) 自分が得た情報をもとに、文章に表された課題について考え、表現する活動を通して、文章に対する理解だけではなく、自分のものの見方や考え方を深めることができるであろう。

3 実践事例

(1) 生徒の実態

本校2年2組の生徒の国語に対する意識は以下のグラフの通りである。



国語の学習が好きで、意欲的に取り組む生徒が多く見られる半面、文章を読んだり書いたりすることについては消極的な考えをもっていることがわかる。授業の様子を見ると、わからないというよりも自信がないという生徒が多く、個人での活動よりもグループでの活動を好む生徒が多い。

そこで、自分で得た情報をもとに、自分で考え、表現する活動を通して、「わかった」「できた」という実感をもたせ、国語に対する自信をもたせたい。

(2) 指導計画

時間	学習活動・内容	評価の観点（評価方法）				
		関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
1	文章を読み，筆者がこの説明文を通して読者に訴えたい内容，結論を読み取る。	文章に関心を持ち，すすんで読もうとする。 (観察・ノート)			筆者の結論を読み取り，ノートに書き出すことができる。 (ノート)	
1	イースター島の出来事を整理しながら，筆者の結論との関連を読み取る。	5つのキーワードに着目し，それぞれに関する事項を読み取ろうとする。 (観察・ノート)			キーワードごとにに関する事項を本文から読み取り，整理することができる。 (ノート)	
1 (本時)	教科書やその他資料を使い，「人口増加」「森林の消滅」「食料危機」の三つについて，現在の地球の状況をまとめる。	様々な資料を用いて，現在の地球の様子を読み取ろうとする。 (観察・ワークシート)			3つのキーワードについて，資料等から読み取った情報を整理することができる。 (ワークシート)	
1	現在の地球が抱える問題点について，自分なりの考えをもつ。	現在の地球が抱える問題点について，自分なりに考えようとする。 (観察・ワークシート)			前時までに集めた情報をもとに，現在の地球が抱える問題点について自分の考えをもつことができる。 (ワークシート)	
1	現在の地球の問題点について，自分の考えを文章にまとめる。	自分の考えをすすんで書き表そうとしている。 (観察・作文)		自分の立場や伝えたい事柄を明確にして，説得力のある文章を書くことができる。(作文)	「モアイは語る」本文に書かれた内容と，自分が得た情報で考えたことを比べることができる。 (作文・ワークシート)	

(3) 本時の学習

ア 目標

- 現在の地球が抱える問題点を教科書本文やその他資料から見つけ，整理することができる。

イ 準備・資料

- ・地理教科書 ・補助資料 ・付せん紙 ・ワークシート

ウ 展開

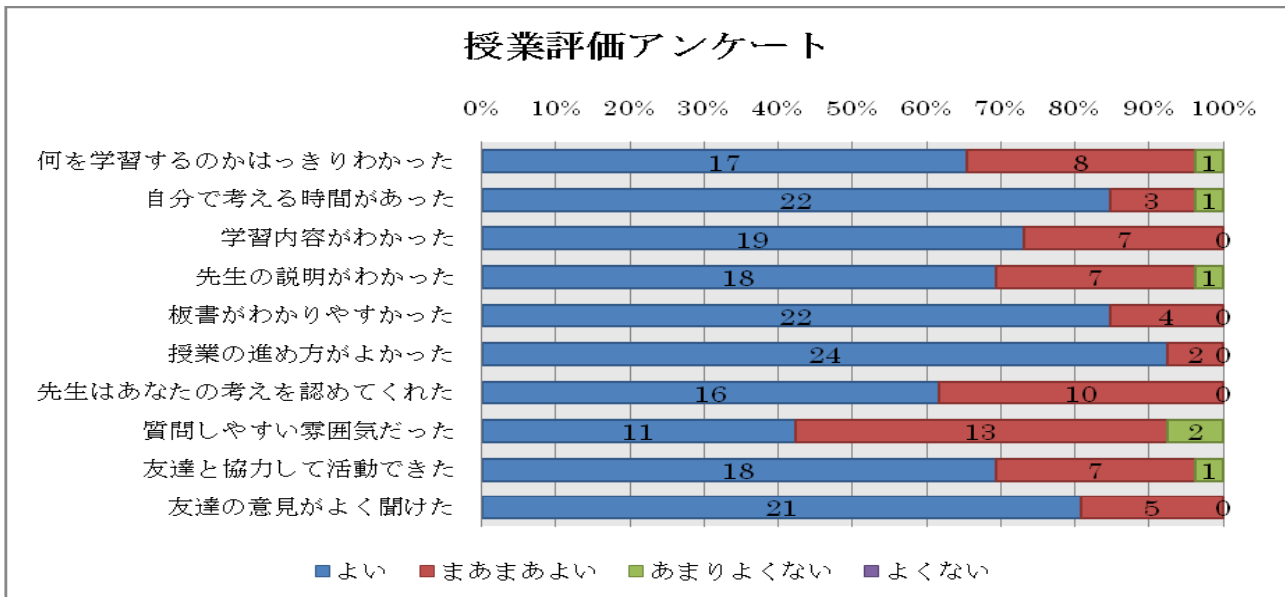
Bの評価基準 ◇配慮を要する生徒の手だて

学習活動・内容	支援の手立て（・）と評価（◆）河中三つの工夫（※）
1 本時の学習課題をつかむ。 イースター島のたどった運命と現在の地球を比べよう。	・本時の学習課題を確認し、目的をもって学習に取り組めるようにする。
2 イースター島がたどった運命のキーワードを確認する。 【キーワード】 モアイ製造→人口増加→森林の消滅→食料危機→文明崩壊	・前時までの学習を振り返り、イースター島が大きな五つの出来事を経たことにより文明崩壊という結果を招いたことを確認する。
3 イースター島の文明崩壊の五つのキーワードのうち、人口増加、森林の消滅、食料危機の三つのキーワードに着目して現在の地球はどうであるのか、資料から読み取る。 （1）教科書から読み取る。 （2）地理の教科書、補助資料から不足している情報、さらに詳しい情報を読み取る。 人口増加 ・地球は異常な人口爆発の中にあり、半世紀で人口が倍増した。 ・2050年には人口が100億を超えると予想されている。 ・人口爆発は、特にアジア、アフリカ、南アメリカで目立つ。 森林の消滅 ・アフリカ、南アメリカの森林面積消失が激しい。 ・理由は人口増加による食糧確保のための農地転用。 食料危機 ・人口が80億を超えると、食料危機が恒常化する。 ・栄養不足人口は8億人で、特にアフリカ、南アジアでは餓死者が目立つ。 （3）自分が見つけた情報をグループで共有し、ワークシートに書き込む。	・「イースター島のこのような運命はわたしたちにも無縁なことではない。」という記述に注目させ、現在の地球の状況に関心をもたせる。 ・教科書に記述してある現在の地球の状況についての情報は偏っており、十分ではないことに気付かせる。 ※教科書からだけではなく、広い範囲から情報を集めることにより、筆者が述べる問題点についてより深く迫れるようにする。 ※読み取った情報は付せん紙に記入することで、情報の整理や分類をしやすいとする。 ・文章だけではなく、図や表等にも注目させ、どんなことがその図や表から言えるのか付せん紙に書くよう助言する。 ・〔地理の教科書…<u>地</u>、補助資料…<u>資</u>〕などの記号を用い、情報の出所をはっきりさせて書くようにさせる。 ◇情報が読み取れない生徒には、キーワードが書かれている文を探すよう助言したり、こちらからキーワードが書かれている部分を示したりする。 ・付せん紙に書きだした情報をグループで共有、種類ごとに分類し、ワークシートに書き込むよう指示する。 ・ワークシートに書くときには、その情報が正しいかどうかとも判断するように促す。 ・グループの仲間が発見した情報については、「<u>友</u>」と書き込み、自分の発見とは区別して書くよう促す。 ◆ B：キーワードに従い、現在の地球が抱える問題点について様々な資料から情報を集め、整理することができたか。（ワークシート・観察） ・グループごとに分担して、見つけた情報を紙に書き出し、黒板に貼るよう指示する。 ・本時のまとめをすると共に次時の予告をして、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
4 クラス全体で確認する。	
5 本時の振り返りをし、次時の学習についての見通しをもつ。	

4 研究の成果

(1) 授業評価より

以下は本時の授業についての生徒の授業評価アンケートの結果である。



研究授業であったため、緊張した様子が見られたが、ほとんどの生徒が課題をしっかりとらえ、取り組むことができた。補助資料についてはほとんどが初めて見る資料であるにも関わらず、しっかり読んで情報を得ようとする姿が見られた。

(2) 仮説1について

国語の授業で、地理の教科書やその他資料を読むことは生徒にとって新鮮だったらしく、(1)でも述べたように無言で一冊懸命読む姿が見られた。そこから情報を読み取れるかどうかは個人差があったものの、文章を読むことが苦手の生徒は図の資料から情報を見つけようとしていた。さらに、地図帳を用いてどの地域か、どの国かなど、自分なりに工夫しながら課題に迫ろうとする様子が見られた。

(3) 仮説2について

今回の学習では、現在の地球が文明崩壊をしないためには、何を課題とし、解決していかなければならないのか、ということを書き起こすことをした。前時までの本文の読み取りで、筆者は「森林の消滅」が文明崩壊の原因だとしていることを確認したが、資料の読み取りをする中で、「人口増加」が文明崩壊の原因だと考える生徒が半数以上になった。資料の読み取り後、教科書に戻った生徒の中には、「筆者の文章の書き方『人口増加』を文明崩壊の原因としているように感じる」と言う生徒もいた。

この学習を通して、生徒一人一人が文章に表された内容を鵜呑みにするのではなく、筆者の考えや内容について自分で考え、深めること、そしてその考えたことを表現することができた。

また、「集中して作文が書けた」「いつもの作文より書きやすかった」という感想が多く見られた。あらかじめ書く内容を準備してから書くことで、生徒たちにとっても表現することに自信がもてたようである。

【生徒の感想より】

- ・自分で今の地球についてあまり考えたことがなかったので、自分の考えを作文にすることが大変だった。教科書や資料を見るにつれ見方や考え方が変わり、素直な意見を作文にすることができた。
- ・教科書だけでなく、他の資料などから情報を得ることも大事なのだなあと感じた。けれど、資料の中から情報を取り出すのは難しいと思った。
- ・普段書いている作文よりも、集中してよく考えながら書くことができた。自分の考えを言葉にし、作文にするのは大変だったが、大切だと思った。
- ・資料を読み取る活動を通して、どのような情報を抜き出せばよいかなどがわかった。また、それが作文へとつながり、資料をしっかり読むことがよりよい作文にもつながることがわかった。

- ・自分で得た情報を作文にまとめるというのは、案外難しかった。しかし、今回の学習で、得た情報を必要のようにまとめ、自分風に構成する力がついたと思う。
- ・イースター島と今の地球を結び付けて考えることができた。資料の活用は普段はあまりやらないので、楽しかった。
- ・イースター島、現在の地球に共通する人口増加、森林の消滅、食料危機の問題は、すべて関係していると思った。どれが原因ではなく、どれかがだめだとすべてだめになってしまうと思った。
- ・資料を見てまとめるのは初めてだったから最初は難しかったけど、やっているうちにできるようになってきて楽しかった。他の友達の作文を読むと、課題は同じでもまとめ方が違うから、それも勉強になった。

5 今後の課題

- ・生徒の読みは、筆者や視点に寄り添った読みになりがちである。説明文だけではなく、文学的文章においても客観的な読みができる学習を心がける。
- ・読んだことについて一人一人が考え、多様な意見が出るような学習課題や発問になるよう、工夫する。
- ・生徒が考えを深めることができるように、教科書以外の補助資料の活用や他教科との関連付けを積極的に行う。また、生徒自身が情報を選択して収集できるようになるよう、継続、発展して指導を行う。

<資料：生徒作品>

人口増加

イースター島では、十一世紀ごろからの急激な人口増加が起こり、百年に二倍ずつ増加する、というできごとがあり、それによって文明が崩壊してしまいました。現在の地球でも人口増加が問題となっています。イースター島と同じ運命をたどらないようにするためには、私たちは人口増加について真剣に考えていく必要があるのです。

現在、地球では人口爆発が起こっています。毎年九千万人のスピードで増加し、二〇五〇年には百億人を超えると予測されています。人口爆発は、アフリカなどの発展途上国で起こっています。その原因は、発展途上国の貧困だと言われています。しかし、本当の原因は先進国にあるのです。

先進国は、現在は人口増加率は高くありません。しかし、昔に起こった人口爆発によって、自給自足をすることができなくなり、不足した資源や労働力を発展途上国に求めた結果、発展途上国に人口爆発が起こったのです。

地球の農耕地はいくら耕しても、二十一億ヘクタールが限界で、その面積で人々が生活するには八十億人が限界です。二〇三〇年には人口が八十億人を突破すると言われているため、人口爆発を止めなければ、地球の未来はないでしょう。

人口増加を止めるために私たちは、やらなくてはいけないことがあります。

その一つは、国がその問題と向き合うことです。国全体でどうするべきか考えることで、地球を滅亡させたくないと思う人が増えるでしょう。

そして、人口爆発を防ぐために、国内産の物を買うなど他の国に頼らずにすることで、国が自立し、途上国からの輸入も減っていき、人口爆発を防ぐことができるでしょう。

地球の未来を守るため、今私たちができることをするのが大切だと私は思います。

森林の消滅

南太平洋の孤島イースター島は、豊かな資源のある島でした。しかし七世紀ごろから、ヤシの森などは消滅していきました。それは、人口が増加し、家屋の材料や日々の薪、農耕地をつくるために伐採されたうえ、モアイを運搬するためのころや支柱として使われたからです。そうして、イースター島の文明は崩壊してしまいました。

現在の地球にも無縁なことではありません。今、世界の森林面積は約四十億ヘクタールで、陸地面積の約三

割が森林でおおわれています。二〇〇〇年から二〇〇五年にかけて減少した森林は、年平均で約七三〇万ヘクタールです。これは、一分間に東京ドーム三個分が減少する速さです。かなり多くの森が減っています。アフリカ地域で減少傾向が緩やかになってきた半面、インドネシアをはじめとした南アジアや南米地域では依然として森林の減少傾向が高くなっています。

現在の地球はイースター島のようにどんどん森林の消滅が進んでいます。このままでは、地球全体がイースター島と同じ運命になってしまうかもしれません。

二〇〇〇年以降の中国の大規模な植林など、森林の減少を防ごうとする活動が今、世界で増えてきています。こういった活動はとても大切だと思います。一人一人が地球の現状を知って、私達にできることをやっていけばいいと思います。省エネやリサイクルや人工林を植えるボランティアなど、私達ができることはたくさんあります。文明崩壊を防ぐためには、一人一人の意識が大切だと私は思います。

食料危機

イースター島は、かつて食料危機によって文明崩壊を引き起こしてしまった。その背景には、森林の消滅による造船難、表層土壌の流失など、森林との関わりも深い。絶海の孤島のイースター島は、食料危機によってその文明を崩壊させてしまった。

しかしこのような事例は、この地球でも言えることであり、イースター島のような運命をたどらないようにするためには、食料危機に着目する必要があるのだ。

今現在この地球では、約八億人が栄養不足で苦しんでおり、その九十パーセントが長期貧困により食料不足なのである。原因として、紛争などの国家の情勢悪化による食料不足、地球温暖化を主とする環境問題による食糧難、貧困層の人口爆発が挙げられる。そして餓死者は世界で年千五百万人から千八百万人であり、アフリカ、南アメリカで死者が出ている。その原因は、自給自足が破綻した先進国が途上国に進出し、植民地としたことで、自由に作物が栽培できず、自給自足が破綻してしまったことにあるのだ。

途上国では、科学が先進国に比べ発展しておらず、食料危機は長期的問題となっている。これを解決するのは、原因を作った先進国の援助が必要不可欠となってくる。最近は食料援助も行われていたりもするが、あくまで国で行われているものであり、私達は介入できない。しかし、私達の普段の行いでそういったことに貢献できるのだ。

まず、家庭菜園を始めたり、農業に転向したりすることである。少人数では効果はほとんどないが、増えれば地産地消となり、食品を買う必要がなくなってくる。その分のお金を募金にあてれば、貧しい人たちを助けてあげられるはずである。

